

当報告の内容は著者の著作物です。

「イスラームを知る－東南アジア、フィリピンのイスラームを中心に」

床呂 郁哉(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)

イスラームを知る：東南アジアの事例を中心に
(東南アジアのイスラーム (ISEA)第5回公開セミナー)

平成22年7月3日(土) 14:30~16:30

島根県立大学短期大学部松江キャンパス・体育館研修室

【報告要旨】

今回の講演では東南アジア、とくにフィリピンのイスラームについて研究者以外の聴衆の方々にもできるだけ分かりやすく、その概要を紹介することを試みた。

また導入として、そもそもイスラームとはいかなる宗教であるのか？というイスラームのごく初歩的な知識を、その歴史や六信五行など基本となる教義や実践、あるいはイスラームの歴史などに関して簡単に紹介した。イスラームは西暦7世紀前半にまずアラビア半島を中心に広がった世界宗教であるが、その後、西暦13世紀頃には西は北アフリカから東は東南アジアに至る広大な地域に伝播していった。現在では推定で少なくとも13億人から15億人前後のムスリムが世界各地に暮らしているとされ、21世紀中には世界最多の信者をもつ宗教になるとも予測されている。こうしたイスラームのグローバルな広がりの中で東南アジアは無視できない大きな存在となっている。世界最多のムスリム人口を抱えるインドネシアをはじめ東南アジアにおいてイスラームは宗教や信仰の領域はもとより、場合によっては政治、紛争と平和構築、司法、教育、経済などの分野においても影響を及ぼしている。

こうした序論に続いてフィリピンにおけるイスラームの歴史と現状について紹介を行った。まずフィリピンの宗教事情の概要について述べると、フィリピンはスペインやアメリカによる植民地化の結果として国民の約9割がキリスト教徒であり、ムスリムは推定で総人口の6%前後を占めるマイノリティである。この事情はムスリムが総人口内で多数派を占めるインドネシアやマレーシアとは対照的であり、フィリピンにおけるイスラームの歴史や現状を考える上でも無視できない影響を与えている。フィリピンにおけるムスリム諸集団は「モロ」と総称され主にフィリピン諸島の南部に位置するミンダナオ島やスールー諸島を中心に居住しているが近年ではマニラ首都圏など各地にもムスリムのコミュニティが増加している。イスラームは13世紀頃にはフィリピン諸島に伝わり、15世紀以降にはスールー

王国やマギンダナオ王国などスールーやミンダナオでイスラーム王国が成立した。16世紀以降にはフィリピン諸島の植民地化を目指すスペインと、それに抵抗する現地のイスラーム教徒（モロ）との三世紀以上に及ぶ戦いであるいわゆる「モロ戦争」が続いた。20世紀に入るとスペインに代わってフィリピン諸島の統治権を獲得したアメリカによる植民地化が開始され第二次大戦後にはスールーやミンダナオのムスリム居住地域もフィリピン共和国へ編入されることになった。しかしアメリカ植民地統治期以降にはフィリピン北部のキリスト教徒の農民を南部のミンダナオ島へ移住させる移民政策が推進され、結果として従来はムスリムが多かったミンダナオにおいてもキリスト教徒人口が増加し人口比でムスリムを圧倒するという事態を招いた。この過程で窮乏化、周辺化を余儀なくされたミンダナオなどのムスリムは1960年代末から1970年代にかけてフィリピンからの分離主義武装運動を開始するに至った。2001年9月の米同時多発テロ事件以降はアメリカ政府によってフィリピンの反政府ムスリム武装集団のひとつアブサヤフ集団（ASG）は公式にテロ組織と認定され、ミンダナオも「対テロ戦争」の戦場のひとつとして位置づけられるようになった。ミンダナオではムスリム分離主義組織の一つであるモロ・イスラーム解放戦線（MILF）とフィリピン政府が、和平交渉を継続しつつ断発的に武力衝突も起きるといような一進一退の状況がここ数年、続いている。とくに2008年8月にMILFとフィリピン政府のあいだで、いわゆる「先祖伝来の土地に関する合意」書（MoA-AD）をめぐる交渉が決裂して以降は、両者のあいだで一時的に再び激しい衝突が発生し、少なくとも70万人以上という規模の国内避難民（IDP）を出すなどミンダナオの住民に大きな影響を及ぼしている。こうしたミンダナオの状況に対しては、日本を含む各国政府や国連等の国際機関、あるいはNGO等による和平構築支援、難民・復興支援活動なども実施されている状況である。

講演では最後にフィリピン・ムスリムの伝統的な信仰や実践について紹介した。フィリピンのムスリムもいわゆるイスラームの六信五行を基本とすることは他地域のムスリムと共通しているが、実際の宗教実践にはこの他にもいわゆるアニミズムやシャーマニズム、祖霊崇拜的な信仰などを含む多様な民間信仰・宗教的实践が認められることも研究者によって報告されている。ただし近年ではフィリピンにおいてもいわゆるダツワ、ダクワなどと称されるイスラーム啓蒙活動などの影響などによって従来の伝統的な実践に変化の兆しもある。講演の最後にはこうした状況を講演者が現地で撮影してきた動画なども上映しながら説明を行った。